



平成29年度 認知症ケアレジストリ研究/認知症ケアの標準化に関する研究

BPSDスポット調査報告書(概要版)

～妄想・収集・焦燥等のBPSDとケア編～

<調査の概要>

【目的】BPSDに対するケアのエビデンス構築

【対象】医師によりアルツハイマー型認知症と診断されている者

- ・ 本人あるいは代諾者により調査協力に同意の得られる者
- ・ 調査協力施設に居住している者(ショートステイ利用者は除く)
- ・ 年齢不問
- ・ 認知症の日常生活自立度Ⅱa、Ⅱb、Ⅲa、Ⅲb、Ⅳの者
- ・ 以下の要件に該当しない者

意識障害(せん妄、脳卒中による意識レベル低下等)、
精神疾患(統合失調症、うつ状態等)のある者
すでにターミナル期にある者
スポット調査中、薬物を調整する予定のある人(調整し、経過が安定した後は登録可)

【調査施設】認知症介護指導者所属施設(入居型施設)

【対象BPSD】食事に関するBPSD、暴言等のいわゆるBPSD

【調査期間】平成29年3月15日～平成30年1月31日

<調査の流れ>

ケア前評価

認知症の人の状態とこれから行うケアの登録

認知症の人の状態
認知症の種類・程度、
ADL・IADL、疾患、自覚等

BPSD等の状態
BPSDの程度、QOLの状態
症状の重症度、意欲等

これから行うケア
環境調整、会話調整、
アセスメント、趣味・外出等

ケア後評価

ケアの実践(2～4週間)

行ったケアと、その結果の登録

BPSD等の状態
BPSDの程度、QOLの状態
症状の重症度、意欲等

ケアの実施率・有効性
環境調整、会話調整、
アセスメント、趣味・外出等

多数集積

疾患別・重症度・BPSD別に有効である確率の高いケア手法

優れたケアの実践 を 初任者・家族 にも 普及

<調査の領域と項目>

領域	項目	前評価	後評価
Ⅰ 認知症の人の状態	1. ADL(Barthel Index)	○	-
	2. IADL	○	-
	3. 栄養・身体	○	○(一部)
	4. 認知症の診断と治療	○	○
	5. 認知機能 (HDS-R)	○	-
	6. 認知症の症候(DDQ43)	○	-
	7. 認知症の自覚(SED-11Q)	○	-
	8. うつ状態(GDS5)	○	-
	9. せん妄(DST)	○	-
	10. 認知症の人の発言、行動	選択	-
Ⅱ エンドポイント	1. BPSDの評価(NPI-Q)	○	○
	2. 意欲(Vitarity Index)	○	○
	3. 認知症の人のQOL(shirt QOL-D)	○	○
	4. 認知症の人のQOL(QOL-AD)	選択	○選択時
Ⅲ 認知症の人に対して実施するケア等	1. 過去1週間の生活	○	○(一部)
	2. 人間関係	○	○(一部)
	3. 身体的リハビリテーション・療法等	選択	○選択時
	4. 本人のニーズを満たすために意識して行っているケア(ポジティブケア)	選択	○選択時
Ⅳ 生活障害・BPSDケア項目	1. 食事に関するBPSD	○BPSDが生じている項目を登録	○前評価選択部分のみ
	2. 暴力、暴言、介護への抵抗、大声をあげる、机を叩く、部屋から出てこない		
	3. ものとりられ、収集、焦燥、繰り返し、その他		



平成29年度 認知症ケアレジストリ研究/認知症ケアの標準化に関する研究

BPSDスポット調査報告書(概要版)

～妄想・収集・焦燥等のBPSDとケア編～

【調査協力施設・事業所の募集】

- ・全国13か所で説明会を実施し、74施設から協力の申し込みを得た。

説明会実施回数	13回
説明会参加施設数	56施設
調査協力申込施設数	37施設
累計調査参加施設数	74施設
登録者数(認知症の人の数)	33人
登録されたBPSD数	79件

【データ登録の開始】

- ・順次、データ登録が始まり、以下のような認知症の人の情報について登録を得た。

基本情報		回答数(%)
性別	男性	12(36.4)
	女性	21(63.6)
年代	50代以下	6(18.2)
	60代	0(0.0)
	70代	2(6.1)
	80代	16(48.5)
	90代	9(27.3)
認知症高齢者の日常生活自立度	I	0(0.0)
	Ⅱa	1(3.0)
	Ⅱb	2(6.1)
	Ⅲa	15(45.5)
	Ⅲb	7(21.2)
	Ⅳ	7(21.2)
	M	1(3.0)
	不明	0(0.0)
要介護度	要介護1	4(12.1)
	要介護2	8(24.2)
	要介護3	8(24.2)
	要介護4	11(33.3)
	要介護5	2(6.1)
	不明	0(0.0)

【NPI-Qの変化量】

- ・登録された認知症の人のNPI-Qの変化量は以下のような分布であった。約80%の事例が、NPI-Qの値が減少していた(BPSDが軽減していた)。

n=24

	11点以上減少	6～10点減少	1～5点減少	0～4点増	5点以上増
人数	1	4	14	4	1
(%)	(4.2)	(16.7)	(58.3)	(16.7)	(4.2)

【食事に関するBPSD(登録数)】

- ・BPSDのうち登録数の多かったBPSDは「焦燥・繰り返し」であった。

N=33

	選択数	選択率
もの盗られ妄想	6	18.2%
収集	7	21.2%
焦燥・繰り返し	9	27.3%
その他	0	0.0%

【登録結果】「焦燥・繰り返し」において、回答者が有効であったと評価されたケアを数えると、下表のようになった。BPSDにより回答結果には違いが生じ、BPSD別で回答の傾向が確認できることが示された。

n=9

ケア分類	数	%	ケア分類	数	%
会話内容の調整	5	55.60%	アセスメント	3	33.30%
趣味活動	4	44.40%	家族関係支援	3	33.30%
外出支援	4	44.40%	安定化	2	22.20%
他者との関係支援	4	44.40%	居室環境の調整	2	22.20%
その他ケア	4	44.40%	刺激調整	2	22.20%
会話方法	3	33.30%	非言語的交流	2	22.20%
接触量	3	33.30%	ケア方法の統一	2	22.20%
生活行為	3	33.30%	医療	1	11.10%

今後さらにデータ収集を続け、詳細な解析につなげる